

鷹取山自然観察会会報

2017.12.10 NO.18

巣箱の掛け替えと利用状況調査 ー平成29年11月ー

1. 巣箱の掛け替え

11月24日金曜日9時30分に鷹取山公園に会員9名が集まり、午後1時まで巣箱の掛け替え作業を行いましたので報告します。

シジュウカラ、ヤマガラは巣箱をよく利用する野鳥であり、当会では平成25年から野鳥の保護を目的に鷹取山周辺で巣箱掛けを行ってきました。平成25年に8個、平成26年に9個を子ども達とイベントを開催して鷹取山公園にかけてきました。現在17個の巣箱が掛かっています。平成27年以降は、新たな巣箱を掛けずに巣箱の掃除と利用状況を調べ、再度巣箱掛けを行っています。



当日は2班に分かれて、巣箱を木から取り外し、利用状況を確認したうえで中を掃除し、水洗いして、痛んだ巣箱は、修繕してから再び木に掛けました。巣箱は木を傷めないようシュロ縄で取り付けました。掛ける場所は、従来と同じ樹木か、その周辺の樹木に掛けなおしました。また、巣箱の位置は地面から2~3メートルの高さで、周囲に枝がなくて見通しがよい場所としました。

2. 巣箱の状況

巣箱は上蓋が開くように作っており、蓋を開け確認しました。巣の材料は巣箱によって違って、コケが大半です。巣箱を利用した鳥の種が何であるかは繁殖期に確認すればよいが、



鳥を刺激することもあり調査はしていません。巣穴は直径3cmにしてあるのでシジュウカラ、ヤマガラのいずれかと思われます。利用されない巣箱の中には、ヤモリ、アシナガバチ、トックリバチが利用したり、ヘビの抜け殻などが残っていました。

3. 利用状況

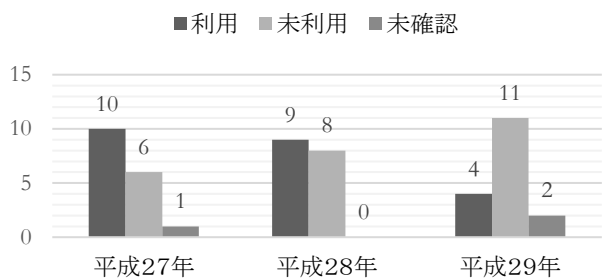
巣箱の利用状況は、鷹取山北側では8個（2個が落下して紛失）のうち1個が、摩崖仏側では9個のうち3個が利用されていました。野鳥の利用率は26.7%（平成27年は62.5%、平成28年は52.9%）でした。今年の利用率は去年



までの1/2と低かった。他の地域の巣箱利用状況など調べてみると30~50%程度であり、今年には特に低かった。3年間連続

して利用されたものは3個、3年間一度も利用されないものは3個ありました。人が通る場所の近くでも巣作りをしているものもありました。日当たりの良い場所では、南向き、西向きは入りにくいとの情報もありましたが確認できませんでした。

巣箱の利用状況



3.2 大きな巣穴

巣箱の入り口のいくつかに巣穴がかけられたり、巣穴が大きく広がられたりしたものがありません。その一つには、新しいコナラの葉がいっぱい詰まっていた。タイワンリスの巣作りではないかと思われます。昨年、タイワ

ンリスが巣箱に穴を開けたりするものが目立っています。更に調べていきたいと思っています。



会では29年12月から第1、3金曜日に定期的に野鳥観察を行っています。巣箱の利用状況も継続して観察していく予定です。関心のある方は是非参加して下さい。今後シジュウカラ、ヤマガラが利用してくれるか観察したいと思っています。

巣箱の掛け替えに参加した人

本多久男、中村紀雄、高橋和子、小池順子、市川寛、郡司久、三科清高、原秀子、村上良二（順不同、敬称略）

柵づくりと甲虫のビオトープ

会報17号で6月23日の柵づくりを報告しましたが、9月29日に2回目の柵づくりと甲虫のビオトープづくりを行いましたので報告します。会報16号で「自然観察の里山づくりのための鷹取山公園等の利用について」報告したように、当会では、鷹取山公園等の貴重な植物相の保護を目的に柵づくりと掲示板立てを行っています。



鷹取山公園の岩場にはケイワタバコの群落をはじめヤマユリ、センボンヤリなど貴重な植物相が多くみられます。これらの貴重な草花を保護するため、柵とロープにより管理区域としました。



9月29日金曜日に会員により10時から2時間半で

作業を行いました。特にカラムシ、クズが繁茂している場所の草刈りを行いました。ゲンノショウコなど外来種を保護するために行いました。公園内のマダケを伐採し、杭として利用しました。その後「守ろう私たちの自然、ここは植物群を保護しています。野草、樹木の刈込は行わないようお願いします。鷹取山自然観察会、横須賀市公園管理課」の看板を掲示しました。

今後、更に保全区域を広げ、貴重な植物相の保全をしていきたいと考えています。

甲虫ビオトープづくり

鷹取山公園等ではカブトムシ、クワガタなどはだいぶ少なくなりました。昔は普通に見られたのだそうです。そこで、カブトムシなどの幼虫が住める環境をつくるため

ビオトープづくりを行いました。カブトムシなどの幼虫が息できる落ち葉の揺りかごで、マダケを切り、長方形の柵を作り、中にコナラ、クヌギの落ち葉を積み上げました。産卵の時期は過ぎてしまいましたが、来年以降カブトムシなどが増えればよいかなと思います。



参加した人

本多久男、中村紀雄、三科清高、高橋和子、島村健二、郡司久、小池順子、村上良二、原秀子、竹之下香苗（順不同、敬称略）

鷹取山の自然観察ガイド（秋冬編）の作成

当会では地元市民に自然について関心をもってもらうために、昨年「鷹取山の自然観察ガイド（春～夏編）」を作成しましたが、今年「鷹取山の自然観察ガイド（秋～冬編）」を作成しました。

市内では自然とのふれあいをテーマとした自然観察ガイドは余り作成されていません。このため、当会では、これまで観察会に配布資料を作成していましたが、冊子を作成したことで、自然観察会はよりわかりやすく、充実したものになると思います。ま

た、自然とのふれあいを通して人と自然、植物と昆虫、野鳥などのかかわりを理解することができ、生態系のしくみを知ることができると思います。

自然観察会のポイントを解説した冊子として活用するほか、近隣の小中学校にも配布しました。作成に当たっては横須賀市市民協働推進補助金を頂きました。

また、タウンニュース 2017年11月3日号に掲載されました。



西友湘南鷹取店前の「湘鷹みんなの部屋」で販売(1冊100円)

鷹取山の自然ガイド本

写真とイラストで視覚化

市北部に位置する鷹取山は、夏編を手掛け、先月刊で自然観察会を実施している地域団体がこのほど、ガイダンスを作成した。季節の変化や四季それぞれを、草花・昆虫・野鳥などを紹介している。

「単なる生き物図鑑ではなく、自然と触れ合うきっかけづくりになれば」と鷹取山自然観察会世話人代表の本多久男さん。昨秋、「春

補助金を活用して製作した。本文の執筆や編集は、本多さんのほか会のメンバーらが担当。写真の大半は、本多さんが長年撮りためてきたものだという。

ガイドには地層の解説や「鷹取山樹木マップ」「セミの抜け殻を調べよう」「イヌビワの身を観察してみよう」「七草を探そう」などの単元もあり、今夏には、これを携えて鷹取小学校の児童と観察会を実施。「今後も地道に自然の中での発見や面白さを伝えていきたい」と話す。

第2日曜に観察会

今月の自然観察会は12日(日)、テーマは「野菊の違いを観察しよう」。神武寺駅に午前9時20分集合で小雨決行。参加費は200円(非会員/保険料・資料代など)。定員は15人程度で先着順。申込・詳細はホームページ「鷹取山自然観察会」へ。

人物風土記に関連記事

鷹取小3年の総合的学習「鷹取の自然」の発表会

鷹取小3学年では、今年度に総合的学習の時間で「鷹取の自然や歴史を探ろう」をテーマとして活動しています。横須賀市自然・人文博物館の学芸員の講座や当会のフィールドワークをきっかけとして、子供たちは「鷹取の自然」をテーマ別に調べてきました。学習のテーマは①鷹取の植物、②鷹取の動物、③鷹取の岩石、④外来生物、⑤危険生物の5つです。当会は7月5日に観察会のお手伝いをしました。

これまでの学習の成果を11月18日に土曜参観として、保護者などに対して成果発表会を開催しました。当日は、多くの保護者が聞きに来ていました。

当会にも子供たちから招待状が届き、参加しました。当日は、11のグループが4～6人で調べた成果を、模造紙4枚ほどにまとめて発表していきました。また、発表後に感想を言い合っていました。

鷹取山の植物グループは「鷹取山には沢山の草花が咲いています。これからも鷹取の植物を大事にしていきたい。」

鷹取山の動物グループは「鷹取山ではなくなった動物も多くいます。動物を増やして、減らさないようにしてください。そのため、私たち一人一人が環境を汚さないよう、心掛けなければなりません。」



鷹取にすむ危険生物のグループでは「危険生物を見たらすぐ逃げる。ヘビやスズメバチを見たら絶対近づかない。」など、子供たちが調べたこと、感想

など聞くことができました。小学3年の子供たちが苦労して調べたこと、感じたことを

まとめたものでした。各グループがよく調べたと感じました。

子供たちが、地元の自然や歴史に関心を持つことは、とても大事なことだと思います。植物や動物など自然のことは、わからないことや不思議なことが多くあります。観察したり、調べたりすると、多くの疑問が分かってきます。それは、自然を大事にすることに繋がっていくと思います。

これからも、継続的に自然に関心をもって勉強してほしいと感じました。(本多 久男)



「追浜ぶらり街歩き」の報告

10月9日におっぱまはっけん倶楽部と鷹取山自然観察会の合同で、追浜の住民を対象として「追浜ぶらり街歩き」というイベントを行いました。このイベントは同倶楽部が毎年行っていて、今年は私たちに要請があり、コラボして実施しました。前半をおっぱまはっけん倶楽部が追浜の史跡めぐりを担当し、後半は鷹取山自然観察会が自

然観察を担当しました。当日は快晴となり23名が参加しました。

9時に京急追浜駅に集合して追浜の史跡めぐりをスタートしました。主な史跡は次のとおりでした。

(追浜の史跡)

<西庵前>

明治・大正の頃、鷹取石で財を成した名主高橋清光の西の家と呼ばれる邸宅があった。

<夫婦橋>

明治・大正の頃まで今の銀座通りは海に面した中洲で、ここで鳶の入り川(南町方面から)と関の入り川(高取町方面から)が合流し、その先は海で鷹取石の積み出しをしていた。

<自得寺>

臨済宗・建長寺派。本尊：聖観音。寺宝：木造十王座像

<築島> 雷神社は領主朝倉能登守により天正9年(1581)に築島から現在地に遷座された。



<浦郷陣屋跡>

天正年間には朝倉能登守の館が、江戸時代には天領を治める代官屋敷（住所兼役所）がおかれ、治安維持、年貢徴収、法の取り締まり江戸防備などを行っていた。

<良心寺>

浄土宗・知恩寺末。本尊：阿弥陀如来。寺宝：宝篋印塔（朝倉能登守夫人の墓）登城篤籠、制札

<首斬観音>

かつて、干ばつ、飢饉などで犯罪者が急増し浦郷陣屋で裁かれ処刑された者多数と言われる。大正の頃、国道31号（現16号）工事で発掘された首上だけの頭蓋骨数個を吊って建立された。毎年地元町内会で供養祭をしている。

<ふれあい橋>

追浜駅と田浦駅の間の中津の高架橋。

鷹取山自然観察会は湘南鷹取2丁目階段から尾根道を歩き、10月に見られる草花を観察しました。鷹取山公園広場から磨崖仏、水道局配水池階段から西友前広場で終了しました。

終了後、参加者からアンケートを取りました。参加者全員が楽しかったとの感想でした。

個々のご意見としては次のとおりでした。

「いろいろ学ぶところが多く参考になりました。」「生まれ育った所ではあるが全然知らず

にいたので勉強できました。」「いろいろな野草があることを知り、鷹取山に行く楽しみがふえました。」「昔、子供達をつれて歩いていた山道、色んなことを教わり、とても楽しく懐かしいひとときを過ごさせていただきました。」「やぶ蚊が問題あり、どうにかならないか。」「季節を変えてやってほしい。」などご意見を頂きました。

今回のイベントを開催して感じたことは、長く追浜に住んでいても地元の史跡、自然を知らない方がたいへん多く、少しは何かの役に立ったのかと思います。



参加した人（鷹取山自然観察会）

本多久男、中村紀雄、市川寛、三科清高、高橋和子、小池順子、村上良二、（順不同）

湘南鷹取自治会文化作品展に参加して

湘南鷹取2丁目自治会では、11月25日、26日に例年の文化作品展を自治会館において開催しました。展示作品は、絵画、書道、工芸、パッチワークなどどれも素晴らしい出来栄のものでした。今年は、自治会から鷹取山自然観察会に参加の要請があり「鷹取山の昆虫たち」の講演と「鷹取山で見られる虫こぶ」について展示を行いました。

「鷹取山の昆虫たち」については、26日に当会員で三浦半島昆虫研究会の会員でもある三科清高さんが、パワーポイントを使って分かりやすく解説を行いました。

当日は自治会員、当会員約15人が熱心に聴きました。説明では、鷹取山に生息する蝶、蛾、カメムシの仲間、甲虫の仲間、ハチの仲間、蛇の仲間について特徴など解説してくれました。参加者からはこんなに多くの昆虫がいるとは知らなかったなどの感想がありました。また、昆虫の特殊な翅や変態、忍者のようにカモフラージュする能力につ



いても説明がありました。展示会場では、フォト・ムービーにより「鷹取山の蝶」についても解説がありました。

「鷹取山で見られる虫こぶ」については小池順子さんがフォト・ムービーにより展示を行いました。虫こぶと呼ばれるものは葉に見られるほか、草類の茎や樹木の細枝、花や果実にも見られるも

のです。昆虫のほか、ダニや線虫によるものや、菌類によるもの、細菌によるものもあります。これらの様々な寄生物によって植物体がこぶのように異常な成長をする事で形成されます。

今回、湘南鷹取2丁目自治会からの要請で鷹取山の自然について説明の機会を頂きました。多く

の方に鷹取山の自然を知っていただく機会であり、今後もしできる範囲で参加していきたいと感じました。

また、湘南鷹取2丁目の会員である小池さん、高橋さん、1丁目の三科さんご苦労様でした。

(本多 久男)

35年前の植相調査と比べてみた

昭和57年(1982年)に逗子市教育委員会より刊行された逗子市文化財調査報告書 第11集「逗子市の植物」FLORA ZUSIENSIS があります。35年前に逗子市全域の植物調査を行っています。調査は5つのブロックに分け、横須賀植物会の会員50名が行い、調査結果のまとめ・同定など、山田友久、西山清治、石渡宏、浜中義治、山内義孝、山本久子、大森雄治、石渡治一の各先生方があたり、執筆も担当しています。

各ブロックは、1)海岸区 2)岩殿寺・法性寺区 3)神武寺区 4)沼間区 5)桜山山区ですが、興味を引くのは3)神武寺区の調査です。これは神武寺と鷹取山周辺が含まれています。神武寺に行くには、東逗子駅からだと表参道、沼間参道があります。また神武寺駅からだと池子小学校の脇を通りせせらぎホームの前から入ることになります。これが一般的な道ですが、脇道もいくつかあります。

35年前と今では、この道も住宅や施設が建ち道路が整備され変化はあるものの、未だ自然は残っています。

鷹取山自然観察会では2014年より「鷹取山の植物相調査結果」をまとめています。2016年12月までの調査結果では、木本類61科188種、草本類58科394種、シダ植物16科49種で合計631種を確認しました。しかし、横須賀市内に位置する鷹取山の調査に限って行っています。逗子市の神武寺・鷹取山周辺の植物調査では、神武寺へ到る参道の調査ももちろん含まれ、一概に私たちの調査と比較し、かつて見られ今はないものと決めることはできません。神武寺から鷹取山への尾根道に向かい、あるいは脇道などのどのあたりで見つけたのかも分かりませんが、一覧を見比べると次の植物が確認されていません。

表1、鷹取山植物相調査では確認できていない植物(シダ類を除く)

オオマツヨイグサ	アカバナ科
マツヨイグサ	アカバナ科
メガルガヤ	イネ科
アブラススキ	イネ科
ウド	ウコギ科
イヌノフグリ	オオバコ科
オトギリソウ	オトギリソウ科
オオアワダチソウ	キク科
ヤマハハコ	キク科
メナモミ	キク科
ハウキギク	キク科
ヤマタバコ	キク科
オナモミ	キク科
ノボロギク	キク科
コメナモミ	キク科
ギボウシ	キジカクシ科

ミヤマトウバナ	シソ科
ギンリョウソウ	シャクジョウソウ科
ヤブデマリ	スイカズラ科
ニョイスミレ	スミレ科
セリ	セリ科
ミゾソバ	タデ科
ナガバノウナギツカミ	タデ科
ミツバツツジ	ツツジ科
クコ	ナス科
ヒキヨモギ	ハマウツボ科
ヤマラッキョウ	ヒガンバナ科
ヒメハギ	ヒメハギ科
コアカザ	ヒユ科
マメザクラ	バラ科
フジウツギ	フジウツギ科
ミソナオシ	マメ科

ヒメトラノオ	ゴマノハグサ科
カラタチバナ	サクラソウ科
イズセンリョウ	サクラソウ科
ヤマジソ	シソ科
タニジャコウソウ	シソ科
ナツノタムラソウ	シソ科
ナギナタコウジュ	シソ科

ツルマメ	マメ科
ミツバウツギ	ミツバウツギ科
タラヨウ	モチノキ科
モチノキ	モチノキ科
ミヤマウズラ	ラン科
ツルリンドウ	リンドウ科
ノカンゾウ	ワスレグサ科

前述したように、逗子市の植物調査と私たちの調査では、調査範囲が異なりますが一部重複するところもあり、また、山系は連続しているため環境に大きな変化はないものと考えられます。しかしながら神武寺周辺は谷戸の環境もあり、行程の多くは岩場と尾根道で小川もなく湿地性の植物が極めて少ない鷹取山とでは、植生に違いがあるのは肯定的です。湿地や日陰を好む、セリ、ニョイスミレ、ツルマメ、ナガバノウナギツカミ、ミゾソバなどは神武寺境内や周辺の路傍には、季節には咲いているだろうと思ひ浮かびます。

現在、見つけるのも困難になっているイヌノフグリ・ヤマタバコ・ミソナオシ・タニジャコウソウ・ミヤマウズラなど、おそらく神武寺境内周辺にはあったのだろうと思ひますが、図鑑やネットで見るしかないような植物も35年前には咲いているのを確認できたのは、個体数がどれほどかは不明ですがうらやましい限りです。

一方、メギ、ヤブムラサキ、ヤマコウバシ、センダン、イワガラミ、キクアザミは記載されておら

ず、尾根筋の目立つところにはないのかもしれませんが、脇道に入ればどこかにあるかもしれません。

私たちの通常の調査区域(A～Fブロック)以外でも、神武寺・鷹取山周辺の調査に記載されている植物も見つかるかもしれません。昨年アキザキヤツシロラン1個体を見つけました。今年は10本ほど見つけています。

35年前の調査結果を見ていると、トキワツユクサ、ミドリハカタカラクサの類がありません。今では日陰には相当数蔓延っています。かつてコバナツナミが群生していたところもミドリハカタカラクサの群生に変わってしまいました。メリケンカルカヤやアレチヌスビトハギも日当たりのよいところでは年々数を増やしています。

里山の植生は刻々変わっていくのが常なのかもしれませんが、先人の克明な植相調査は、豊かな自然を維持することも主眼になっているように思います。
(小池 順子)

鷹取山自然観察会の植相調査で確認されている植物 (神武寺・鷹取山周辺の調査では記載されていない)



メギ(メギ科)

別名コトリトマラズ。株立ちする。枝に鋭い棘がある。花期4～5月、秋にベルベリンを含む赤色の液果を熟す。



イワガラミ(アジサイ科)

落葉つる性木本。花期は6月～7月、装飾花は花弁状の萼片が1枚。

神武寺・鷹取山周辺の調査で確認されている植物
 (鷹取山自然観察会の植相調査では確認されていない)



フジウツギ(フジウツギ科)
 落葉灌木。枝は4稜で赤味を帯びる。枝葉は有毒、花期は夏。



ヤブデマリ(スイカズラ科)
 樹高は約4m。花期は初夏、実は初め赤く秋には黒紫色に熟す。装飾花の花弁は5枚。

触覚で見分ける蝶と蛾

蝶と蛾の違いについては、蝶は日中に活動し、翅を閉じてとまるのに対し、蛾は夜間に活動し、翅を開いてとまるという人が多いようです。しかし、翅を開いてとまる蝶もいますし、昼間活動する蛾もいます。より確実なのは、触覚で蝶と蛾を見分けることです。蝶の触覚はこん棒状なのに対して、蛾の触覚はヒモ状か櫛状という違いがあります。

蝶の触覚は、先端がこん棒のように太くなっています。この太くなっている所が、匂いを感じ取る部分になっています。蝶の触覚は鱗粉に覆われていますが、匂いを感じるとされる内側だけは鱗粉がなく、くぼみや溝があります。

蝶や蛾の触覚の主な役割は、匂いと空気の動きを感じ取ることです。特に、夜間に活動する種の多い蛾の雄の中には、遠く離れた雌のフェロモンを捉え、確実に雌のいる場所に飛んで行けるように、櫛状に発達した大きな触覚を持つものもいます。また、ヒモ状と言っても、細く長いものも太く短いものもあり、蛾の触覚は様々です。日本産生物種数調査によれば、日本産の蛾は5090種であり、触覚も多様になります。一方、蝶の方は247種で、触覚はこん棒状です(ただし、セセリチョウの仲間の触覚はこん棒の先が再び細くなります)。

蝶は、三浦半島では84種が記録され、60種が見られます。鷹取山自然観察会の蝶類調査では、鷹取山で47種が観察されています。(三科 清高)



ベニシジミ (蝶)



ウスタビガ (蛾)



ビロードハマキ (蛾)

鷹取山自然観察会 (ホームページを見て下さい)

HP : 鷹取山自然観察会 (旧 鷹取山の花と樹)

<http://takatoriyama.eco.coocan.jp/>